

たくさんの命に囲まれて～小山町復田作業

大友 英寿 千葉市稲毛区在住

去年の4月から下大和田、7月から小山町の活動に参加しています。どちらも自然がいっぱいの素敵な谷津田です。以前から「機会があったら農業をやりたい」と思っていたのですが、谷津田でのお米作り体験を契機に、本格的に農業を勉強すべく、昨年暮れに農家に弟子入りしました。今年の3月からは田んぼの準備が始まり、畦の補修や人力での田起こしなど、大忙しの毎日でした。

その合い間をぬって、小山町の休耕田の復田に参加しました。12月のYPPの時に初挑戦した時は土が硬く、「この調子だと、ひと坪でも田植え面積を確保するのは大変そう…」と感じました。3月のYPP「野草を食べる会」の時にはシャベルで少し掘り返しましたが、低い草の根はびっしりで、地下茎を持つ草もあり、とても大変でした。曇り空の下、男4人でせっせと掘っても少ししか進まなかったのを思い出します。

4月のYPPのあと、師匠の田んぼの畦直しが一段落した事もあり、本格的に小山町の復田に参加するようになりました。お母さん達が大量来ていたり、時には子供達も来てくれて、とても賑やかでした。復田には主にシャベルや鍬を使いました。草の根が30センチ以上の深さまでびっしりと編み込まれたようになっていて、思い切り打ち込んで一回では掘り返せません。何度も何度も振りおろして、やっと5センチ、やっと10センチと、「それこそカタツムリより遅いのでは？」という位のペースです。

作業中、シャベルや鍬で土中のミミズやザリガニを殺してしまう事も少なくありませんでした。心の中で謝りながらの作業で、肉体的な負担より精神的な負担の方が大きかったように思います。

しかし同時に、新しい命達にもたくさん出会いました。田んぼの広さが4坪、6坪、10坪とどんどん広がるにつれ、シュレーゲルアオガエルの泡状の卵塊が次々見つかりました。その孵化したオタマジャクシ達の小さい事！泡の中で何日が過ごすようですが、特製ベッドはとても居心地よさそうでした。トンボの縄張り争いは時に三つ巴、さらに四つ巴まで！しかも僕のまん前で、僕の事は完全に無視で…。羽がぶつかりあってカシャカシャッ、



田んぼから生まれたオオシオカラトンボ

ガシャガシャッともものすごい音がして、しばらく呆然としてしまいました。一人で作業した日も鳥が歌い、綺麗な花が次々咲き、そして小さな虫達もどこからかどどんやっ来て、田んぼはいつも大賑わいでした。春は本当に「はじめまして」がたくさんです。

5月21日の田植えはよく晴れ、たくさんの子供達が来てくれたのでとても嬉しかったです。初めての子が多かったようですが、泥だらけになりながらもしっかり植えてくれました。面積がさほどなかったのに、植えたのは一人20～30株くらい。すぐに終わってしまいましたが、みんな楽しんでいるようでした。「子供達にとって、家で一時間遊んだり勉強したりするよりは、田んぼで一分でも遊んだ方がどんなにか楽しく、勉強になるのではないか」と強く思います。お父さん達は復田作業をしてくださいました。お父さんパワーは素晴らしく、僕が半日かかった面積を1時間足らずで、あっという間に耕してくださいました。まるで魔法を見るようでした。これからもぜひぜひ、よろしくをお願いします。

僕は街育ちで、子供の頃、田んぼはおろか、林や山の中で遊んだ事もほとんどありませんでした。ですから子供達が田んぼでいろんな生き物を見つけては嬉しそうにする姿や、お母さんの快諾を貰って(!)泥だらけになって遊んだりする姿を見て、いつもとても羨ましく思います。もし将来、子供を持つ機会に恵まれたら、毎週、できれば毎日、一緒に田んぼに行き、たくさんの生き物を見て、その生死を通し、命とは何か、実感して欲しいです。

みなさまにはこれからもお世話になります。今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。



里山たんけんレポート

第 78 回「下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い」報告 2006 年 7 月 2 日(日) <もり

蒸し暑い一日でしたが、虫たちは元気でした。クヌギ酒場も開店しました。ノコギリクワガタ、コクワガタ、カナブンなどが樹液を舐めていました。ヌルデの木にはマダラアシゾウムシ、ヨツキボシカミキリが集まって繁殖行動をしていました。田んぼではギンヤンマが飛び、小川にはクサガメも姿を現しました。

開花植物：ヒメジョオン、ハハコグサ、ウラジロチチコグサ、チチコグサモドキ、ハキダメギク、ノゲシ、ホタルブクロ、オオバコ、ハエドクソウ、トキワハゼ、トウバナ、コマツヨイグサ、シロツメクサ、オッタチカタバミ、ムラサキカタバミ、スカシタゴボウ、イヌガラシ、マメゲンバイナズナ、オランダガラシ、ケクツネノボタン、ミドリハコベ、ウシハコベ、アレチギンギシ、ドクダミ、エノコログサ、オオエノコログサ、シマスズメノヒエ、メヒシバ、ネジバナ、ツユクサ、ヤブガラシ、ムラサキシキブ、クリ。

野鳥：セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ウグイス、ツバメ、ホトトギス。

昆虫：オオカワトンボ、シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、ノシメトンボ、アキアカネ、ギンヤンマ、キアゲハ、モンシロチョウ、スジグロシロチョウ、モンキチョウ、ヒメジャノメ、ヒカゲチョウ、キタテハ、ヤマトシジミ、ルリシジミ、ベニシジミ、シロシタホタルガ、ノコギリクワガタ、コクワガタ、カナブン、アオカナブン、コアオハナムグリ、マメコガネ、セマダラコガネ、テントウムシ、ヒメアカホシテントウ、ヨツキボシカミキリ、ヒトオビアラゲカミキリ、ミイデラゴミムシ、オオヒラタシデムシ、ゴマダラオトシブミ(黒化型)、マダラアシゾウムシ、コフキゾウムシ、ヨツボシオオクスイ、ヨツボシケシキスイ、キマワリ、ツチイナゴ、ヒシバツ、ヒメギス、オオカマキリ(子)、ハラピロカマキリ(子)、アワフキムシ sp、アヤヘリハネナガウンカ、アカスジカメムシ、チャバネアオカメムシ、ヒメアメンボ、オオスズメバチ、ヒメスズメバチ、ハナアブ、ヤマトマダラアシナガバエ、ホシアシナガヤセバエ

クモ：オオシロカネグモ、コガネグモ、ナガコガネグモ、ヤマシロオニグモ、サツマノミダマシ、ゴミグモ。

その他：ニホンアカガエル、シュレーゲルアオガエル、ニホンアマガエルとオタマジャクシ、クサガメ、メダカ、マルタニシ、オオタニシ、カワニナ、ヒメモノアラガイ、サカマキガイ、ミスジマイマイ、ザリガニ。

(参加者 大人 6 名、小人 1 名；報告：網代春男)

第 61 回 下大和田 YPP「田んぼの生き物とあそぼう！」 2006 年 7 月 30 日(日)晴れ

梅雨明けの青空に恵まれ、はじめての親子連れがたくさん参加してくれました。

最初にみんなの田んぼの周りで観察と水路でカエルや魚、ザリガニ採りをしました。「メダカ!」、「そっち、カエル!」、「ザリガニ、でか~い!」とあちこちから歓声があがります。生きものを捕まえることに慣れていないのか、なかなか捕まらなかったり、捕まえても触れなかったり。でも、すぐに慣れて、水路に入り込んで泥んこもへっちゃらで生きものさがしに熱中していました。捕まえたカエルで恒例の「カエルもみんなも大ジャンプ大会」。いつものことながら本番になるとなかなかジャンプしてくれないカエルに、声をかけたり、お尻を押しあげたり、みんな一生懸命。うまく飛ぶと「やった~!」。カエルに続いて子どもたちのジャンプの番。ちょっと照れながら、でも真剣な顔で元気に飛んでくれました。涼しい林の中でゆっくりお昼を食べた後は、クモ合戦の観戦。大きく育ったコガネグモに最初はちょっと腰がひけている様子でしたが、戦いがはじまると目が釘付けで顔がだんだん近づいていきます。クモのにらみ合いには迫力がありました。あとは田んぼに戻って生きものさがしをしたり、樹液に集まるクワガタムシを捕まえたり、枯れた木に産卵するタマムシを観察したり、思い思いに谷津を楽しみました。最後にジャンプ大会の表彰をしました。手足も顔も泥んこの子どもたちの顔は満足いっぱい、朝集まった時よりもたくましく見えました。



終了後、有志で古代米田んぼの草取りや畦の補修をしました。

(参加者 大人 24 名、幼児 9 人、小・中学生 7 人；報告：高山邦明)

今回は、復田の作業もなかったため、3時間近く観察をすることができました。クロアゲハやさまざまな蝶に出迎えられ、あざみ谷に向かうと田んぼのまわりはアキアカネ、マユタテアカネやオオシオカラトンボなどのトンボもたくさん飛んでいました。すると、悠々と飛んでいるオニヤンマを発見。林のなかには、オニヤンマのヤゴの抜け殻もいくつもありました。中には羽化したばかりで羽を乾かしているオニヤンマもいました。皆、間近で見るオニヤンマに見入ってなかなか先には進めません。谷の奥のコナラの木のジャングルジムで子どもたちが遊び終え、集合場所に戻り、観察会を終了。



オニヤンマの抜けがら

開花植物：アキノタムラソウ、オカトラノオ、オモダカ、コケオトギリ、コバノカモメヅル、セリ、ハエドクソウ、ハンゲショウ、ヒメジョオン、ヒメヒオウギスイセン、ヘクソカズラ、ヤブマオ、ヨウシュヤマゴボウ。

野鳥：カルガモ、キジバト、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ツバメ、シジュウカラ、ヤマガラ、エナガ、カケス、ハシブトガラス。

昆虫：キアゲハ幼虫、クロアゲハ、スジグロシロチョウ、キチョウ、ヒメジャノメ、ヒメウラナミジャノメ、ジャノメチョウ、ヒカゲチョウ、ルリタテハ幼虫、キタテハ、タケカレハ幼虫、セスジズメ幼虫、アケビコノハ幼虫、シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、コノシメトンボ、チョウトンボ、アキアカネ、マユタテアカネ、ノシメトンボ、コシアキトンボ、オニヤンマ、ニイニゼミ、ヒグラシ、ベッコウハゴロモ幼虫、ヒメギス、ヤマトフキバツタ、マダラカマドウマ、ショオヤブ、ミズアブ、ウシアブsp産卵、ミカドガガンボ、ナナフシモドキ、オオヒラタシデムシ、ヨツボシモンシデムシ。

クモ：アシナガグモ、イオウイロハシリグモ、コクサグモ、サツマノミダマシ、コガネグモ、ナガコガネグモ、ドヨウオニグモ。その他：ニホンアカガエル、ニホンアマガエル

(参加者 大人12名、小学生6人、幼児1人；報告：松下恵美子、記録：網代春男・高山邦明)

谷津田・季節のたより

下大和田

- 7月15日(土) 水路でハグロトンボが飛び始める。林の樹液にカブトムシ登場(高山)。
- 7月22日(土) 水稻農林1号が花をつける。アジアイトトンボやマイコアカネが舞い、夕暮れにヒグラシの声(田中)。
- 7月23日(日) アブラゼミの姿を見る。カントウヨメナが咲き始める(網代)。
- 7月30日(日) コシヒカリが出穂(高山)。

小山町

- 7月2日(日) 田んぼからマユタテアカネが羽化。増えた田んぼに緑米を植える(高山)。サシバの鳴き声、小鳥にモビングされる。3日にも声がする(松下)。
- 7月8日(土) あざみ谷津でオニヤンマが飛び始め、ニイニゼミの声も。稲の間でオモダカが咲き始めた田んぼにチョウトンボやウスバキトンボの姿も(高山)。
- 7月9日(土) シノダケの花が咲いていた(齊藤)。
- 7月14日(金) サシバが住宅街の上空を鳴きながら旋回(松下)。
- 7月20日(木) タムラソウがチダケサシの群落の中で咲いていた(齊藤)。
- 7月22日(土) サシバがかなり低い位置で鳴きながら飛んでいた。少し羽が痛んでいるように見えた(松下)。
- 7月26日(水) 復田した田にゴイサギが舞い降りた。また、別の田にはホトケドジョウの稚魚がたくさん泳いでいるのを確認。ヤブショウガの花も咲いていた(齊藤)。
- 7月29日(土) サシバが3羽鳴きながら谷津上空を旋回(松下)。ヒグラシが鳴っていた(齊藤)。
- 7月30日(日) 前日咲いたであるう花ガラをつけた月見草を見つける(齊藤(洋))。



花盛りの稲(農林1号)

イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ？ と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、YPPの活動は大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうして、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先(いずれも): ちば環境情報センター(TEL&FAX:043-223-7807 E-mail:hello@ceic.info/)

- ご注意: ・車で来られる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などに置かないでください。
・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。
・小学生以下のおさんは保護者同伴で参加ください。
・季節柄、たっぷりの水や帽子など十分な暑さ対策でお出かけください。

* 田んぼや畑は地元の方の大切な私有地です。観察会以外にむやみに立ち入らないようにお願いします。また、貴重な動植物の捕獲、採取は控えてくださいますよう、ご協力をお願いします。動植物の移入も厳禁です。

第63回 YPP 谷津田プレーランドプロジェクト「田んぼの守り神、かかしを作ろう！」

みんなで植えた稲が大きく育って稲穂を垂れはじめる頃。そのお米を守ってくれるかかしを作ります。家族で、お友だちどうして、はじめてのグループでどんなかかしができるかな？

みんなでモミの数をかぞえて今年の収穫量しらべもします。

日時: 2006年8月20日(日)10:00~14:00 *小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。また、ご連絡いただければ地図をお送りします。)

集合: 中野操車場バス停に10:00(JR千葉駅10番成東あるいは中野操車場行きのちばフラワーバスで45分<千葉駅発8:53、9:08、9:23など> 料金は520円

持ち物: 弁当、飲み物、敷物、長靴、もしあればかかしに着せる古着・帽子など

参加費: 300円(保険・資料代など)

共催: ちば・谷津田フォーラム(ホームページ <http://yatsuda.2.pro.tok2.com/>)

第13回 小山町自然観察会とかかしづくり

残暑厳しい毎日ですが、そろそろ、谷津田では秋の草花も見られるようになります。運がよければ、オニヤンマの産卵にも遭遇するかもしれません。また、5月に田植えしたコシヒカリの稲も花をつけ、穂をつけています。かかしを作って稲穂を守りたいと思います。ぜひ、ご協力ください。

日時: 2006年8月27日(日)10:00~12:30 *小雨決行

場所: 千葉市緑区小山町 リンドウ広場(当日、集会所前に案内を出します)

持ち物: 長靴、着替え、飲み物、軍手、いらぬ服や帽子など

参加費: 100円(保険・資料代など)

第80回 下大和田9月の谷津田観察会とごみ拾い

秋の花が咲き始めました。初秋の谷津田を散策しましょう。

日時: 2006年9月3日(日)10:00~14:00 *小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(同上)

集合: 中野操車場バス停に10:00(同上)

持ち物: 筆記用具、弁当、水筒、長靴、帽子、敷物、軍手、ゴミ袋など

参加費: 300円(保険・資料代など)

主催: ちば・谷津田フォーラム

共催: ちば環境情報センター



編集後記: ・待ちに待った梅雨明け。夏休みに入った子どもたちもこの時を待ちわびていたことでしょう。カブトムシやクワガタムシ、大きなオニヤンマなど昆虫少年・少女には最高の季節です。楽しい夏の思い出づくりにぜひ身近な谷津へ出かけてみて下さい。(高山)
・小山町での観察会が一年を迎え、昨年の記録と比べても生き物が増えたように思います。観察指導をしてくださる細川先生も、地元の方が赤道の草刈や水路の整備をしてくださっていることが大きく影響しているとおっしゃっていました。本当にありがとうございます。観察会だけでなく、林やアシ原の手入れなどもすこしずつやっていきたいと考えています。(松下)